



ひとひと 女・男 ひろば

<第12回>

農業の担い手の過半数は女性であるのに、女性の働きは固定的な役割分担意識などから、正当に評価されていないことが多いようです。女性が能力を発揮し、働きやすく、活動しやすい環境づくりがこれからの課題です。



いきいきと働ける 農業がみんなの 食生活を守ります

佐藤 千穂子さん(JA新津さつき)

農家の女性は控えめなので、外からは分かりにくいのですが、畑作の作付計画や収穫・販売など、女性が陰の主役となって家を切り盛りしています。しかし、それがなかなか理解されず、地域農業の振興や将来を決める市の農業委員会にも、女性委員がいないなど、地道で生き生きと働いている声が届きません。

今、日本のそして新津の農業は大事な岐路に立たされています。農業の現場で、実際に大きな力となって「頑張っている女性の声」が、もっと生かされる土壌づくりが急がれていると思います。

立ち上がれ！バイオリサーチパーク③

新潟薬科大学応用生命科学部

教授陣紹介



食品製造・食品工学研究室教授

服部良男さん

ね。

お酒の飲めない私にとって、新潟の地酒を楽しめないので残念ですが、その代わりにおいしいお米や魚、野菜、果物を満喫しています。

これまでどのようなお仕事をしておられたのでしょうか？

東京大学農学部農芸化学科卒業後、森永製菓に入社し、食品の研究・開発に携わりました。同社の取締役研究所長や、バイオ会社の森永生科学研究所社長を経て、このたび新学部に参加することになりました。若いこ

ろは植物タンパク質の高度利用研究が主要なテーマでしたが、アイデア創出から研究・開発、商品化、流通までのさまざまなプロセスや新規事業の立ち上げ、経営活動など、幅広い経験を積むことができました。

私が関係した多くの商品が、きつと皆さんのお口に入っていることと思います。大学で新たに指導・研究される上での抱負をお聞かせください。

新学部では、食品製造・食品工学研究室を担当します。主として、新潟県の主要食料資源を対象に高度利用研究を進め、食品産業の振興に寄与していきたいと思っています。また、食品工学の基礎、応用研究から新し

い食品製造法の創出を目指していきます。長年の企業経験を生かして、トータルマーケティングを念頭に置いた、コストマインドを持った実践的な学生の育成にも力を入れたと思っています。新津市民へメッセージをどうぞ。新学部は「地域に開かれた大学」を目指しています。市民の皆さんとは、講演会、セミナーをはじめとして、いろいろな場での対話を積極的にしていきたいと思っています。ぜひ大学にお立ち寄り下さい。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

新津市の人口

	平成14年1月31日現在(前月比)	前年同月比
男	32,506 (- 11)	(- 76)
女	35,078 (+ 7)	(+ 87)
計	67,584 (- 4)	(+ 11)
世帯数	21,070 (+13)	(+235)

1月中の動き

出生	46	死亡	68	転入	106
転出	88	結婚	13	離婚	6

身近な自然・里山を歩こう

リフレッシュしに来ませんか？

木もれ陽の遊歩道

都市整備課
公園緑地係
☎24 - 2111
内線585